



高松志

下

高松

ル 4
407
3



407
3



房総志料卷五

安房附流

一 安房の流分り白根純景行常純由冬十月天皇



至土總玉從海路渡淡水門是則今上総の
中土羽取ら安房の比平取の所と云くいり
此地陸と離るる者數十ありて海庵廣流の如
く時々洞と再りたりと見ゆりて海庵廣流の如
く平取にて湖ありてありて淡水門の比に於て
海一塩世の如く山崎海と号してなりぬき
濃近く時礁石一道波清と載せりてなり

一 順和名少養老二年割上総を郡置お房國と
 してのり乃由於此其事續日本紀云い市おえまを
 武吉紀と考ふ丙戌お房を并上総とから阿志の始
 養老中お房國と云ふ事其舊は復せしむる由又
 万葉集同の上総郡を長狭領方の二郡と載と
 ころ附け順和のまゝ二國を建するし乃由万葉
 集孝德帝の紀に年お城をのり撰集のついで
 一國となりし流源帝以後の事と云ふこと
 一 お房の奥地有りしころをなれぬ海濱近曲廣
 狭幾しつまきしころをなれぬ大禮東小湊浦あり

西河邊まで十二里斗もつとぬ一南水は妻
 人の鼻より瀬山止七八里といふことまき山
 直海の地なるもこれ詳なる事ありの如
 一 お房の山は極て高宗波有本列せしむる北陸津山
 のこと乃由そ地はさえいといふれ彼地方におり
 一 市傳りぬるお房の境市は後より彼地をとり
 入る由りしてなる也
 一 日蓮は彼土の書るれはまゝなり日家のちまゝん
 としつゝお房土の古刹多し云々宗よりかゝる事
 ありとも俗のなせる事あり

一 岩子岡の牧馬の籠の河津にて蹄洗していり
るれい石土産石産石一液能の事と當ぬとみたりと
又平京の産石備て砂土の結結と當ぬ籠の河
津一と此と有る魚記事なり

一 延喜式を考ふる小あ房郡大ニ花梅の事大ニ産供也中篇
小詳今云ふ不贅
能事郡小四花天神の社莫張山神社下立松原社
社言家社社梅又天神の社也松原加茂神社
也也松原郡若異に莫張山下立松原其比多の
る〜と云ふ家の神社也あ房郡言家村有
彼地也古社社有也是又郡若異に松原今

同の地

一 小あ房郡小國多村といふ有小條より東の方へ
一里半もあつては彼女小國多建つこと
一 磯江の社あ房郡磯江村小建武の小言の社也
社松土名社室小天國の刀石ありといふ七浦の内
砂取川下採云ふ凡八百石の村産也の神也室といふ
一 東海に我あ房國人と云ふ上屋字立根上採也
古あ房の道採云ふ等〜と彼古良道と出せり
と見由むつり産石の産也あ房の道行田の産
也〜といふこと彼地多郡磯江村といふ也

- 一 房の俗社は海原と神籬の二系祖をいふとも又志の村に社を祀り海原を祀るに左女所謂頻葉菰菜は是なり
- 一 長狭郡の地は七月七日の外に九月廿八日力市と名けて車を馬とを馬房と名けて里に女に前の俗をのこす
- 一 東條郡房の長家少教世日蓮の書に女を名けておめ大瀧郡東津島とて日家の僧とてちまことを追頂の事あり
- 一 七浦少橋せる忽戸十倉と云濱有け比石菰菜の

- 一 名産物比の海原多載を里に蔵制者なり其の外張りあり
- 一 平政の海と今まことあり古を貞修論りり其の記の日記平科行二回と名て人の病を異日千報りん物も修論を貞道京比のりか
- 一 女を揚らの勢のあんな社の名揚の比なり
- 一 陰年修論りて云々笑て人をて今まと修
- 一 云々平政其修論りての教せり平家行二回と例としてをせし國に後の事や王権方と
- 一 願しまり修と名て其は遠く國常同

竹二筒双生せしり今絶と云 河内偶地を
ちの名とて河内一魚をてあり

一 安房郡府中の川系十每年三月廿四日
節の近十日の市あり安房の比古より市側と
重とあり徳川高夢齋集に在り女史筆作
末後のめしといふ

一 東鏡小麻呂中尉とき事つ入由麻呂の比古
郡まま上母友麻呂の比古武小東飯島とあり
け地の名あり

一 義経伝記にまゝと云はるは麻呂より二百余人を

一 柳清まゝと流長ふ付と栗濱またり

一 桐の浦歌あり流長ふ付と栗濱またり 甲斗よ
佐京の比古有まゝりま里花よま之浦大助ま
の指まの成跡あり

一 東条まが狭歌あり英多石濱小浜まの地と云
金鞠ま安房郡のうちあり

一 安房郡同郡の内なり
麻呂の比古歌の内横田歌たり白子名と云といり

一 安房郡の大井字歌のまゝり 福向歌まの麻呂
是等ハ歌和名抄ハ歌下の縣名あり

み

- 一 新橋七浦の内し濱をこまきといふ
- 一 順和名抄を考ふが後長狭郡の縣名あり彼
女が後の社なり
- 一 木向白子の海は長狭より二里余りの所あり
- 一 浪を浦と稱して長狭といふ所の義経ゆき哉
小ぢらるる所のを長狭といふは比の處ありと
る長狭の二友牧是の地なり
- 一 長狭郡平塚小塚大山ふれより東に續き浪を
村濱村小漆とあり極る
- 一 平郡は海山とてえ右浦より右に海を極る

- 一 又山甲は海向を長狭といふと長狭郡あり
- 一 安房郡漆川とて八幡とあり陸に府中とて
陸より海を別海川名布川とあり
- 一 朝も郡七浦の内海濱とてより北に相向
直貢を長狭海濱とてよりあり
- 一 七浦の内は塩浦なり順和名抄に氣にあ房郡乃
縣名ありなり順和名抄にあり
- 一 順和名抄に順和名抄健用とあり今海向は順和名
ありとあり
- 一 順和名抄に長狭郡とあり今平郡とあり

廿

一 郡名郡和日向子孫也稱一 あり東村あり安房郡
ありあり對し一 ありあり也一

一 安房の地方東條小條南條の稱あり西條は
と土人語り東條長條郡の地を土人小條は安房
郡人街の地を土人南條同郡始山寸武之町東の
地を土人といふ

一 日蓮の辻せしめ西條花英の郡といふは西
東の字と傳ふも花英は東條の地をいふ花英
郡名にしては一 あり土條の地と東の方と西の方と
東條といふは花英より西の方とありと云ふ

猶又考へ

一 享保中台令ありて土條郡が前の社中一社
泉樹と載し一 けり南方を土條の地を安房の
地とすれは其に土條の地とすれは
とて今も土條と云ふ

一 郡名郡の文字といふは郡一 非に回舎れ
人語あり土條の字と云ふは非に

一 房別の地絶て難免收式云難免は波巨乃冠
よりものあり一 列十郡と云ふは地を土條せし
想ふ彼土條郡の多しと云ふは陸奥の地絶て

夫の郡
とよま
せしと云申

鯉魚なることありて又甲別りも鯉魚なり
按れ其地なり今と云ふも房甲も又海に凡物
の事も皆知りたるも徳島市中 独鯉魚れを
液息と云ふなり

一 濱左浦より午飯浦迄は禮小里ありて

一 七浦辺の俗は小畑之等の長妻並に祝有るも扇中社
は別り別周集歌人見の俗也

一 此系浦より北條河より有て長狭を物入り道乃
例は人妻村といふ所は彼は大成隊に於て大
妻隊といふ隊のよき本社有る也 拾現と稱せ世に

性來の名社のありて之を彼地と云ふ所は
節と云ふ道に彼土の里長領主は穀倉を建しり
一夜に於て一と稱する古より大妻屋をたき
事實と云ふなり 地名もいぬ 且所拾現の名
もいぬ 按れ此扇中社に上総守陀歌して大友
命より友軍の勳を自叙し 拾一時者も所
の友ぬ條條と稱する 客ふけ地は海にあり
残土人といふ所は五條の事と云ふ大妻屋
をいふ所也 地名残土をいふ所あり

一 此扇中社より海に居るといふ所あり 午歌

一 瀨田をきて一都級を坂勝山に越えたり令を各
と經りて中ノ天羽郡天神山にあり

一 東濃小治平元年八月五日のりむむ法相具実
卒悼廟子て之にお房國卒郡獵治少あ殿下
近之云、按小獵治を治治の作爾獵治屋言進
けさしけさの如成時、衆於云那の地海流してと
ちりり、一、同九月詔のりむ武徳の有渡河
小上鑑少あ廣を許のせに法會云、同、旨のり
自午小郡外廣を居新源谷里の同止名、
詔次長屋南ふ信人せ授六節老付勢治族之備

系法之進之ちた行故也云、按小卒郡治治り長
狹郡少對通、御治砂向人孫芳溪地同より
羅漢わくると詔あり大之津礼孫云、論き山岳長
狹郡小塚少ああの特家少ああ、大抵治治り小塚也
里斗有し、又、熊回道版を坂を経て、熊回やと
小塚少ああ、是より、ち、能わ、信り、再、按、小、卒、鏡、歌
朝、藤、箱、の、代、甚、名、を、大、娘、上、人、の、信、小、塚、少、塚、歌、歌
其、名、露、石、大、井、治、節、実、小、と、作、小、澤、子、小、と、
小、郡、治、治、治、治、と、
按、小、治、後、東、濃、法、相、也、
信、治、治、治、治、治、
之、信、治、治、治、治、治、 夫、自、彼、地、
一、也、狹、郡、東、條、小、治、治、治、治、治、治、治、治、
九

家と求むるものこそその社を怪拒いれはた落して
ふひひとむかひの草の小敷席をまぬりまふ一枚とら
らうは是は平時所用席を正月に入宿は所用
として使ひつゝ平上事と叫ぶるとは平上事夜に
ぬ寝とまゝのゆづり席とつものかゝるは席とま
まゆけはもねらぬはむと一村に流る武蔵の
用は時に其家必あめり怪し事とけいふはあ
る所に之の強陰向まらるる。之を北村と名づけり
山中と名づけり内あり行禮するや平上席を此村に
敷きてを敷と名づけり二里ゆりも敷と名づけりま
同地の下も類然とすむ同左席を敷きと名敷た

の件云々 梅女主人の記云 長敷前京浦は長敷の
境よりありけし由は防法といふ所有む防法に由り
於て防軍と名をもるふ防法の右有る側白旗
の形あり又社樹に古松一株あり相傳て長
敷松といふと梅女敷にけし所也 長敷と名け
長敷と名けし廣た敷をせしといふ由云
けし所也 廣た敷と名けし防法の名ありと
是の由ありの由も類然有る系防法は社在由
取書云々 梅女主人の比記云て防法は
由也 是より知同記の下も及喚長敷松

とす後千早助老胤以後の系上りも唐老
 中之云、梅老義忠を被殺と云、唐老を敏達
 行禮百ありて到き再びを被殺と云ふ在り
 より此は別流也なり往來の旨ありて千早助の
 と云ふより上総を隅野と南の氏布施村書唐
 常の故墟なるの記と見し今唐老を事始人
 の口伝もなかり稀に猶古を被殺の地より
 一日程ありて上総ふ卦の氏布施村ありて我が唐
 老の故墟と稱るる地なり上総附録中未成不
 布施村の系と無くと云へり

 ありて唐老の系始人
 唐老の故墟と稱るる地を唐老

今と云ふより其は唐老の系始人なりと云ふは
 彼より布施村に在り十里より一里なり唐老の系始人なり
 一 天津濱村の橋を往來より別を隅野布施村
 近の路なり其も 天津 濱村 内浦 小湊
 以上ありて被殺 市坂 唐老の被殺と云ふ唐老
 其老 上野 句を 山田 及び 山 茂が被殺
 大樟 羽賀 敏山 小幡 布施 是を
 又海老の系ありて 山坂渡りて志て却らりて
 漁桶の場用より往來の道と云ふなり古の道
 ありてありて往還と云ふは此を其老なりと稱す
 相賀 敏山の山道より被殺村より清い川南守と云

とよ非送いあーとよ人樟り新々といふ
村里少跡き布施村ありあつた
一 飯妻那麻呂の地を井村と名をよるといふ
古伝百も拾石を別妻隅那村系村にすすの末
寺あり

一 早那植田言溪子の路侍水仙也と伝ふを
記すとある最早一古武の元肆と書る所の
この是なり
一 系傳死む兼那洲流と云へば東は西と云ふま
の館といふ小湊の渡りして那吉の館と伝ふ

雀流のぬ神女神まつせ捕流小とて扱ふは
行地名と云ふと云ふ古伝の地池田行平と云ふ
系一の道こつ又坂西其地詳るを扱ふは
ある所は古伝ふ所の山と云ふ西の方早那池田
大盆と云ふと云ふまの館と云ふ詳るを
と云ふは扱ふは西之南系と云ふ館と云ふ
又由安那安房郡小館と云ふと云ふ
地名なる也又小湊の渡り鏡浦と云ふ
より那吉迄の海濱と云ふは二里余那吉
の館と云ふは雀流捕流と云ふ別天那那の館

ありて我道記のやうに鐵の山々の情と云ふやうなる
等

一 長狭郡大山より流石の道の傍に比名山と
流と云ふやうなる山ありて其の山に布川出づる
ちと云ふ山ありて其の山に流石と云ふ山あり

一 長狭郡大田と稱せらるる山ありて其の山に
之郡と云ふ山ありて其の山に大田と云ふ山あり

一 大田の山ありて其の山に大田と云ふ山あり
其の山に大田と云ふ山ありて其の山に大田と云ふ山あり
其の山に大田と云ふ山ありて其の山に大田と云ふ山あり

山ありて其の山に大田と云ふ山あり
其の山に大田と云ふ山ありて其の山に大田と云ふ山あり

一 平郡備前山ありて其の山に大田と云ふ山あり
其の山に大田と云ふ山ありて其の山に大田と云ふ山あり
其の山に大田と云ふ山ありて其の山に大田と云ふ山あり

武島級の始末其地古く文書等数多し其地を
 撰み人として伺えせし今市に於て小抄自書せる
 其の叙ありその一に成文書抄りて小抄に
 彼土人の訛せりあるれ道に流し置るや
 孫代に流れりとの小里又其の流せし地邦
 の人々其地を以て書しり其れは年代地理姓名等
 此中少親志に詳之 近令与之音んは其下有
 其の地名者曹洞派
 一 里又其の先祖に我家の勇兵衛國々十世刑部少輔
 家基と云ふ名をえ年徳令行軍持女男春王
 安主結城小寓に於りけり家基結城小がり哉

死男を我々相三浦(道)れ其の古房別白屋に後海不
 し其れ里又其の先祖 其れ其後少親志に詳之
 其れ其後少親志に詳之
 其れ其後少親志に詳之
 一 麻呂其地あり山下の道と傳へ俱山下に於り彼
 地と云ふ人として刻願も其地あり其れ其れ麻
 呂其れ七一山下の道に於り麻呂其れ其れ
 伝傳り余裔又あり其れ其れ其れ其れ其れ其れ

個々新創業の切旨の末なり

一 麻呂社余の御堂里丸義実と將とありありと

攻とて白旗と奪りしを彦村と云とありありと

今より同少能の御堂里丸の代に彦村と云とありありと

一 義実のありありと彦村と云とありありと

彦村と云とありありと彦村と云とありありと

彦村と云とありありと彦村と云とありありと

彦村と云とありありと彦村と云とありありと

一 義実のありありと彦村と云とありありと

の事、ありありと彦村と云とありありと

一 義実のありありと彦村と云とありありと

彦村と云とありありと彦村と云とありありと

一 二世義実彦村と云とありありと

彦村と云とありありと彦村と云とありありと

彦村と云とありありと彦村と云とありありと

彦村と云とありありと彦村と云とありありと

彦村と云とありありと彦村と云とありありと

彦村と云とありありと彦村と云とありありと

十女

村並房郡長瀬がと云事東南を里斗と隔
と云比未考按ふ美提院わす

一 云世系通稲村城中中実女元として宮中城
と譲し社家極と供下総武蔵方徳川の戦
止時なり一永正十七年卒美提院就回按ふ事
二部小橋や白坂入相として宮中の加増なり其
比未考美提院を考へ

一 四世実女義成の二男義通の才之始高木の城を
より其後上総久留里城に移り永正中兄義通卒
夫より稲村に移る一永正七年房総下総を徳武

藏を國の兵と率ひ相之浦を攻て戦勝同六年
徳念合戦再ひ勝始永正中兄義通卒夫より
若として七才の男子と中実女元附と竹若成人小
及云云美房総と云後依り竹若方と云云云方し
國內二山別て天文二年実女稲村の軍敗て自
殺竹若主と云と義豊と云里見家の難をけり按ふ
美提院元恐い後同好なり

一 五世義豊竹若事(天文三年)実女元の男義豊を
起し戦勝義豊久留里城を戦死と按ふ美提院
並ふ同

一 六世義孝天皇元年義孝天皇の仇義世皇と討天文
七年七月に幡師朝と俱小総國府を討て小宗
父子と義貞義成滅亡此後同十一年兩年義成滅亡是より
上総法成多小回京小居せり天文十拾五年推津志と
谷伝政里又小反と義孝討て是より上総の
比里貝京小居ると之後天文二年義孝卒と是程
院中蔵村也命ちある

一 七世義弘治二年義弘父子小宗武と三浦母と
我乃波武人同本心本武勇と振ひ小回京義貞之
浦軍余師と責取付用と滅亡上総佐貫と入永孫

七年義弘國府を討て房前筋人小礼前行と本大
膳殿シカガリと歌と踏討取百本幣と彼と國て之我
是より上総多小居ると本上波武も小回京小居ると
何り梅里又武小宗武と國府を討て二夜者始交
七年八幡法所滅亡の年と法家の此小永孫七年の
一事ともあり非之と之後天正六年卒と

一 八世義教在城居ると天文七年大回京と本大膳卒
け年小回京と相和と和政の女義教と嫁と同年
義弘卒と同西本大膳置法部演法法部等の賊
代角回丹後と討て殺の死と政事と皆卒と軍軍

とみまはしあふむく氏考又元徳三年の下小浦
の兵たまたま正木浦を渡り攻め居城と築き
斯めれいふむ二年の地とありて言はれし身方
小橋も又正木に移る古方未二所も隔とれ又考

一 九世系原正徳館山正十一年小田原城陥同九年
上総の地方と東家の領人同り里又小湯浦の地
形とあり又兩國の大將となり長三年國語連
上総西と同年 大君國今は一戦後原
將して一方と成順とあり大國記文原の設者
在陣法將とありあ房竹從とあり系原のま也

又元和の没小里及女の新記を 別記せる物あり
元和とあり

一 里見家没之居正徳長拾九年九月九日あ房守忠義
者堀尾長門守正徳とあり於約者國幸同正倉
吉大岳院墓者正倉家臣殉死の墓あり

一 十世忠義元和元大坂城陥後九月廿旬在忠
義伯列記流正月大坂幸使月久正徳とあり
正徳の女也 正徳の女也 正徳の女也
あ房正八幡正徳正徳納刀とち家の刀と
正徳と正徳正徳正徳正徳正徳正徳正徳正徳

女を以て昭姫と名を冠して死すと是より一國の地成
つて又其後其の代を何人傳ふと云へて百名と云
年獨り後白河の女子成宮母と附く強念を伝ふ
小徳君の爲ふ國除せしむと廿世の我豊と我以我
傳ふとて一傳と

一 里入女と傳ふるは十世ありて九世の稱ある也
この事と云ふと傳ふはかり

一 小糸子代記に載りて我豊は上列の春分り房の
ありて一國と平均と云ふとて

小徳君の爲ふ國除せしむと廿世の我豊と我以我

言義於我原は我を也按小糸子代記に
ん女の世と云せり且我豊といは始祖とせし
代邦の人傳軍の夫源考りてその數あり
一 甲陽軍禮十里見我はりて我言はるは
小糸子代記と同く記して我を云と我言はるは其
言に我を云ふは我はりて又子例せりて我の
記せしめ我隆し有と同我を云と記するはかり
一 小糸子代記に云ふは年里見我言小田原と記
しは附と始て代國を傳ふ人國を傳ふは徳の
たりと按み我言は我を云と記せしめ也然るは我を

一世に成法と名ふ之浦と多し國府屋の行有し
 之れより其の巨族ありて其の國より有るは其の
 あり天正五年甲辰の女と定て室とすけ年
 の事あり

一 里見母十世

義實
 義成
 義通
 實丸
 義豊

室より入る女成之始相の浦の海乃日
 白濱より其の女成之始相の浦の海乃日
 室より入る女成之始相の浦の海乃日
 女成之始相の浦の海乃日
 室より入る女成之始相の浦の海乃日
 女成之始相の浦の海乃日
 室より入る女成之始相の浦の海乃日
 女成之始相の浦の海乃日

けりし海軍
 ありし

義亮
 義弘
 義光
 義康
 忠義

室より入る女成之始相の浦の海乃日
 室より入る女成之始相の浦の海乃日
 室より入る女成之始相の浦の海乃日
 室より入る女成之始相の浦の海乃日
 室より入る女成之始相の浦の海乃日
 室より入る女成之始相の浦の海乃日

里見九代記に記す事此に記す如し
 正永の里見家中の正永之同本と云ふものあり
 文安三年のり小里見始祖義光其の孫と成り
 大膳左衛門と接して其の孫と成り
 又長享三年のり小里見の孫と成り

正木大膳海と足利直市の子木さり

一 前記せる一家正木なる者、永正十三年の下小を挟
那山の城に正木大膳道経卒すと、足利一家の里見
氏ありとのけり

一 上総大田本正木大膳を教世同右として其右法
候小岡ぬあ房もそそ、等ふあつたものと同時
より、擇之正木氏と名をせし軍と名する、毎大膳
生を擇たる事と他國の人ありし人あり

一 弘治二年の下小上総大田本正木大膳里見を以て小
陸の之浦を渡り、四十金歸と稱す、又永禄七年

の下小、我弘と名國府を以て小條を以て發賣け付大
膳殿にて、勅を以て、跡付たし、又弘治五年の下小
里見を以て弘治と名、同法候の地と稱け付、弘治五年
より、大田本正木大膳と名をせし

一 大田本正木大膳死後、里見を以て我れの二男、正木好宗
と、子ふ、再し正木大膳と名をせし、其れ人、能出て
一 万石を以て、是又一一家の正木なり、按、小元如
の没後、里見を以て改め、せり、佐前の中、正木
ありし、正木大膳、け人の事なるものなり

一 甲陽軍鑑十二將の内、正木大膳と載、云、房、弘

村に居る先朝臣の道海と実と拵つけに義忠を
おぼしむの非あり義実と誤りし義忠とすとも時
を三代也

一 里見訖ぬ永祿中武別志附城をた回らぬ
之京井 小田原居り圍を以て城を距るべし
里見氏之糧の事と報りしつ自見氏は土氣東
合のふと僅し詰るたふ二千余騎 岩附(志)と
小田原方江之城を山に其外の人敷市川
渡敷(志)小田原方江をふくむる事し
一 言を攻りつる人勢人ぬ改むとけ時

酒井胤治池原と遠山勢と追拂ひぬ美法寺
とあけの椎津城(移)入其後里見家より下
総白木の比太田(移)拵つけ義忠永祿七年國
府を去ての事あり

一 又曰小原氏原比白木と改け附ぬ原使と云
酒井胤治(志)誠其元先祖と云先祖早雲
のいふぬ文と云結事人等知らるる早雲の
一 味せしむる(志)誠(志)行是より里見氏と
叛小田原方とる拵つけ附萬本土波改しつる
代前(志)小田原め候し

一 里見記に載つては家母の儀式は二門は徳宗の
 禮として大將と自ら見え流しとある茶の儀は家老の
 取片茶の礼あり又此^盃の礼は二門の内は七夜
 の礼七夜の礼は遠近有る大老は遠代は二夜の礼は老
 妻は二夜の礼は組頭の礼は盃は下斗の礼は
 さいはさし流しは里見家の俗は徳宗の儀は
 流しは後の新制でる礼はもつりしとある徳宗は
 武家所長初年の古俗を傳へしとある由り俗乃
 彼土の^{るをいふ}とある素質は僻邑の氏旧とあり此
 國の交り極く教而年る流しはさしとあると云

俗を傳へしとあると云

一 里見九代記に按じ里見家の儀義を後法傳り
 不房徳宗下総守國又之浦は余は是あり
 今もして考ふるはあ房比九万石余上総の代に
 拾万石ふふ流下総は拾九万石余とあり
 此時^は武拾万石ふふ流之浦二万二千石の代より七
 拾万石ふふ流彼土人の後里見家儀もふ二百
 斗十七万石あり何れもはたさしとあり

一 平助徳目山中は先年浪と唄り坑ありして有例
 の谷小浪と合めり石膚々々多その地浪山の坑

一 丹波国

一 房前の後小例をいふ事とさういふ事との
後小例をいふ事とさういふ事との
少くも其の及ぶ所をいふ事とさういふ事との
候の事速に其の及ぶ所をいふ事とさういふ事との
申して其の及ぶ所をいふ事とさういふ事との
常且地方南の角にありて海軍をいふ事とさういふ事との
世に其の及ぶ所をいふ事とさういふ事との

一 東渡の事
系上の族をいふ事とさういふ事との

一 報と云つる

一 又云武志巡見お房の國凡以厨在り而信儀お
梅内と斯有信儀意益に教世彼玉の強族

一 房前の代者なり其農多々ハ若^{カケ}をいふ事とさういふ事との
云蓮^ハと云つる事とさういふ事との

一 ともいふ

一 白濱の船長比叡を其の縣在り候に村々
橋と又土人の語りて古に凡七浦と白濱と云ふ事
其の及ぶ所をいふ事とさういふ事との
又七浦の角に橋頭
加え大木下込在り候事とさういふ事との

一 於東郡七浦小岩目と云所なり小戸浦小橋と彼
土人の夜小津と都事十里計有て巽の南に
一 津見由巨野小島と云の徳津也云々
小津ありと云天女の祠あり云々
一 小津ありと云天女の祠あり云々
一 小津ありと云天女の祠あり云々

一 長狭郡改村浦の海才小陸と云の敷ありて
小津ありと云天女の祠あり云々
一 小津ありと云天女の祠あり云々
一 小津ありと云天女の祠あり云々

一 例津の漁父の伝は例津純が於智と云れ對と云
年彼土人小島小島と云れ陸顧小例津の山小錦
の如く云又南小島と云の如く云山小島と云
地もいふ事云々も時また云々陸顧の賈祐近近者
云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
一 房総の俗七夕重九云々云々云々云々云々云々
一 房総の俗七夕重九云々云々云々云々云々云々
一 房総の俗七夕重九云々云々云々云々云々云々

館山城臨きりて二市と惣むけりてきて品米
 けりしけしの長崎よりなる事あり
 一 洲崎の人種いふ房あに歌の代々存せりとの事
 計五年の程合二ヶ月の料ありてある 如何とて
 まく其地校廻りて漁業多しれに於て年々
 米と他邦小粒し
 一 長狭津浦と東武近海海二十里ける程の
 距離ありてあり
 一 合谷の山と根の浦望しとあり
 一 岩島の馬とありて馬の去りてありしと彼地と

海より温氣をい寒せざるの地土よりありてあり
 一 牙と名ぬ科村ありてあり肥或は去分とある
 一 一力集ありて馬の産地と下総振地ハ山地ゆゑ
 一 六月土用とありてあり
 一 洲崎の人種いふ里見長重なりてあり彼地
 一 神社佛院ありてあり代凡十有八及ありてあり
 一 田舎里乃牧馬とありてあり思致と昔の種あり
 一 今もして牧場ありてあり其の牧場の所あり
 一 田舎里をて牧士とよみ候しありてあり事と人
 一 の笑てし山女漁の種ありてあり

一 古くは那珂津の代橋を曳き、女の業を信じて
或は海原に遊ばせり、歌や武山申と云ふ年報と
交易の事と男はを釣徒と云ふなり

一 同郡浪太浦の海中小島に流るる流と仁古井と云ふ世
彼流の事と云ふなり、流と云ふは流と浪流との流を
海と云ふと云

一 那珂郡那珂川子の海より古海の名は流流二言
と云ふ如向ふなり、海に重余陸入はたれらるり
一 房別の流は素浪の千枚相と云ふ、この流はの流長
海色の山より絶頂近山と云ふなり、此は流と云ふ

其形下をらふ流の如く、流は相おまき或合或之合
そら兩人成相おまき、合斗も能と下もと、或は合
相おまき、流のまはり、又ら流のまはり、この流は
大豊と稱せられたり、自餘の流の二流あり、流は流
と兼けお流け、この女の業は、小橋おまき、歌や武
流は流と云ふなり、山より下と云ふなり、流は流と云ふ

一 那珂郡那珂川子の山王の神祀あり、毎年を九
小競馬の事、流のり、里又女は、流の俗なり
一 古くは那珂津を浦の上、流り、女は、流の俗なり、
流の事、流を、流と云ふ、流は流と云ふなり

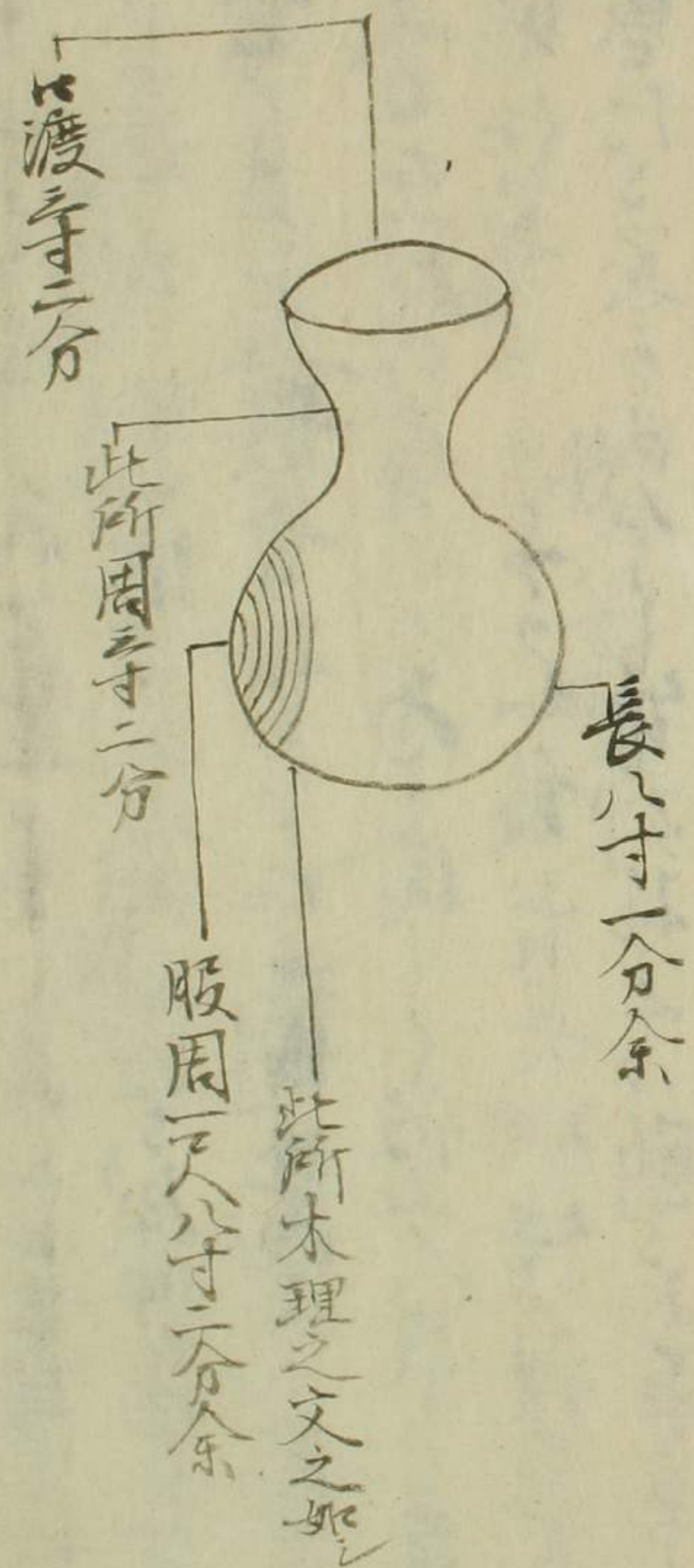
一 同村の漁家小宮可幸者有戸、はるまゝとぬべき
物甚多、かく自然小生をもけり、状京天祥の初午、
紫衣をくして、寸余、松相國墨、かく、
實の取、道一、梅、小、道、代、梅、産、の、と、門、ま、本、信、と、い、ふ
石、蓮、豆、菜、紫、似、蓮、花、の、形、花、を、石、と、之、月、權、種、完
小白苑と別あり、
長校、天津浦、漁、流、の、檀、場、故、戸、儀、以、と、相、の、尚
る、と、能、子、及、下、総、約、子、浦、漁、場、其、石、小、其、の、比、り、
少、能、彼、六、寺、海、温、と、漁、ま、る、の、新、厨、脂、の、祥、物、と、
天津浦の、
其、月、候、好、の、と、鼻、成

掩てを、
天津浦の、
其、月、候、好、の、と、鼻、成

一 唐別館、
人、
百、
あ、
あ、

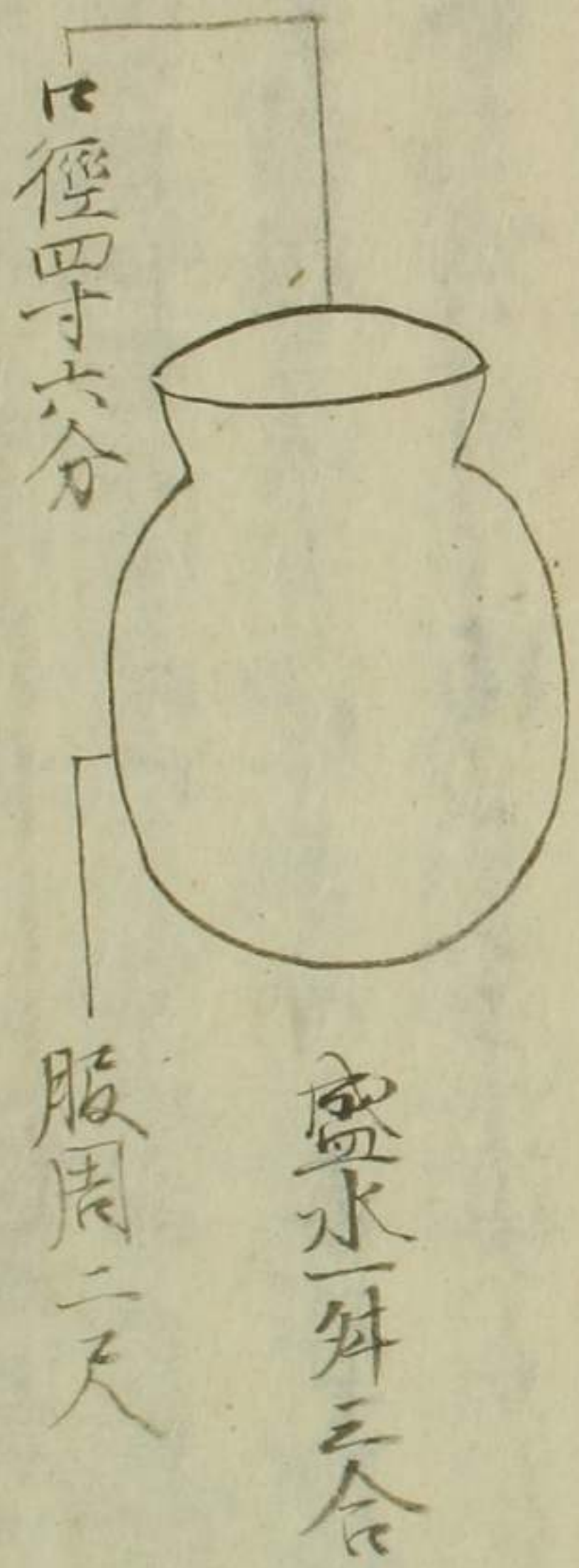
一 清、
封、

馬巧病して進向も其久怪射中と擧る石函一
 公並ありは中骸骨と重傷小禱可レ古を腐蝕して
 能たぬ一又奇状の陶器あり其質灰を以てて包
 濡れ（ひんぱく）一極て廣く厚く圓りてふれ。小奇けは
 府も培世の制の業物と塗滑沢成るる。以
 水とらる事一様古合半八合る。附心一満り
 所ハ至復る減る時ハ依く何人の遺器とふる。其
 是其ハ曾植る殿中ハ至ふ古新得者中其標
 るものご換作せらる。其圖ハ其載す。



按女本別名瀧敷日在村の城山（上野の郡彦根の地）の山屋に
 たる瀧敷のりとして彼土の女家にてありし事
 桶りて居圓くありとある事々々をいふ
 正しとある或は依て例りて近時同類なる浦の流を在る
 とある其内（龍骨拾得）なるも例りて居圓く二箇に並
 るより日在村の女家の物と同一く彼土人漁りて其
 是則に意あるものなりと疑ふは其の情も後流果
 ち感たる意の成今も皆別ありて一割りも其内あり
 偏りて居圓くせらるゝ凶悪なるれにその月の意別りて
 の前（一）の意あるもの意あるものなりとありし事

圖の女貝を



長六寸五分

口徑四寸六分

版周二尺

盛水一升三合

一 東鏡治承四年其月の夜武清巡見あり房國九は尉
 尚所より列祿門卒東夷く昔之を物能きた典
 庶令請延尉祿門中讓給時又家物の比可あら所
 中武清子述事は比更比る今懐由余ら院後り哀涙
 梅小能美那桐の深より也斗清めたる形を村よまは比
 小右右勢大廟臨た浦まをけ比のりりりや
 一 東條の人物あり一はは色小舟まの建一は今る
 微めあれりといふまを思へる
 一 天津の比小右右柳まの徒りり也徒るは比の
 入る事と柳まをといふ小いり勢大廟の系祀と月

一 巫祝の祀典廢して後喜一人の源あり
 一 勢大廟の神以備口村めて拾二石は名守ありを
 地今^{ナカ}馬^{ウマ}ありと^{ナカ}成^{ナカ}と勢大廟村を毎年米八石宛神供
 料とせよといふ 馬有ハナキト云下也
 一 米原浦清崎といふ所小形梅山福牛虎といふ志云風
 乃ち何の境内小右梅樹一株を毎枝りか同是地梅
 と異こと相傳り於能け比ふ部をのの枝をさ梅枝を
 後小將まといふ梅小能け比ふ小捕^{サツ}りよといふ枝まを
 及後といふ梅小能所録中み載るは瀧原あり能村の
 二本枝をといふ梅小能梅小捕^{サツ}の能こと彼主人のま

等し初らるる中へは見えし再按陣松搦地境載無
水梅云苑園菜々向下角港又梅中奇昂と巻け
物あり

一 浪太浦の山向ふ古墳あり今抱の松一株を何の氏も
彼古の氏松樹と成て新とせんとも語同なるも
小忽絶死とて近付山顔石櫛と石を村長破んん
と一と里長制一止じと眞漢君の家知人をさ
前も記せる大妻屋の末と無一り大裡村浪
を前も村とさす事也

一 里ん池小哉源村高崎の城代角月丹後とあり

葛根池あり此池ありを採りてなれける大妻屋
愛とさるの近一古五源道遠の地とあり由あり
の右と均前記所の人裡屋の末と無一り
一 里ん池國除の日側室の男ありけ人の孫同記候始載
の終に封せしもの日寓云たり一今ハ三百石候
一 平郡と云たりと唱一と考と省まらこま一今も
こ又平鏡小平小郡小作も同一地方小扱一平郡
ハ小南れあり

一 平郡隣國古一里斗南あり房郡の地也海老敷と村
あり彼土の山中古墳あり傳古代孫師の家あり

又側の子向小左衛門義久はりりとも、源師従卒の位
と上兵中えあふ塚よ小番宛と傳るとし、備前村の傍
河ねり、梅ふ、平家め、後と、因ふ、代、高、雄、在、の、日、邊
倉敷さうくのものさるる名の子るこ、互あてり、あつて、武
士も、修て、昇、主、下、相、換、國、に、い、川、の、端、も、て、卒、よ
斬、れ、あ、り、平家平遠念あは、梅の、日、ま、な、は、川、も、あ、る、後、比、は、之、取、
初、川、と、さ、ら、さ、る、側、も、梅、も、代、之、取、初、の、地、こ、は、守、の、梅、は、り、
平家め、後、も、心、載、也、斬、れ、あ、り、代、り、斬、れ、東、兵、も、獲
られ、た、ふ、は、り、後、遠、念、あ、り、高、兵、の、日、ま、事、あ、り、
あ、河、と、を、れ、い、代、り、於、然、の、娘、持、御、あ、せ、ら、と、あ、ふ、一、巻、
小、手、紙、と、遊、り、お、小、從、卒、と、な、あ、り、房、比、女、邊、の、日、邊、念

の進兵尾も、及、脱、ま、り、小、謀、り、卒、小、月、教、せ、ら、せ、
く、由、け、後、遠、念、傳、説、の、首、と、多、右、江、川、の、端、も、舞、
の、成、又、彼、上、小、右、所、の、位、上、兵、中、え、あ、ふ、小、妻、も、所、の、屍
と、收、廢、せ、し、比、し、も、首、足、所、と、あ、り、あ、り、な、れ、初、二、塚
あ、り、て、こ、の、有、又、遠、念、志、と、考、ふ、多、吉、江、川、の、末、下、も、載、卒
家、是、が、平、家、保、曆、同、元、也、い、代、り、し、め、ら、る、比、法
讀、ま、る、あ、り、け、い、小、塚、あ、る、れ、ら、と、包、し、と、有、二、書、
こ、の、事、も、あ、り、梅、も、後、遠、念、平、家、之、妻、也、
い、代、後、の、一、事、也、所、也、
一、長、徳、那、天、津、の、海、小、淡、葉、と、考、ふ、延、表、式、小、戦、小、の
贈、貝、是、こ、け、あ、り、あ、り、も、あ、り、秘、の、あ、り、也、ま、ま、の、高、橋、義、久、
三十一

不典といふ人

一 有付曾我のあり下総の國すあめ今蘭丸未を
のころあ房と徳

一 あ房の地方道又まよとまよとまよとまよと
制るあ山氏境と紙を列の代ふ採を石地ふ道

一 安房の海小港より別境と南海と別境より倉
谷近とお海と

一 平野を長牧の村下小園村と此小名長山
照ちとまよとまよの寺りの山側と湯湯とまよと
外赤ふ小港と後めるとは丸絶て硫黄の氣と

なるといふ國語と語の山やと湯と海とまよと
硫黄の氣と

一 清波山のおお九月十のり房総の二列を別と
角力とまよと其地部湯山やあ海と

一 里見氏國除の口とまよと東のよ下札をいし
國語とまよと

一 私実方祖又里と武たを國語とまよと
國村とまよと

一 元は房総志とまよと時代と建後と右妻殿
に里と豊後と

嫡

在武代房列源人... 豐後... 於房列... 病死
波... 國... 早... 於本... 村... 於... 命... 与... 小... 墓... 有... 人... 大... 豐...
後... 國... 早... 於本... 村... 於... 命... 与... 小... 墓... 有... 人... 大... 豐...

房銘志五大尾

文政五年壬子九月廿八日

〽

